



Cisco WAE モデリングデーモン (WMD) の構成

Cisco WMD は、メモリ内にリアルタイムのネットワークモデルを提供します。DARE は (NIMO から) ネットワークの変更を受け取り、これらの変更を含むパッチを Cisco WMD に送信します。Cisco WMD および DARE の動作の詳細については、[概要](#)の章を参照してください。



- (注) WMD で使用できないデータおよび過去のデータは、見出し IgnoredTables および IgnoredColumns の下にある <run-directory>/packages/cisco-wae-modeling-daemon/priv/etc/sql-patch-config.txt にリストされています。

DARE および WMD を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [WAE モデリングデーモン \(WMD\) の構成 \(1 ページ\)](#)

WAE モデリングデーモン (WMD) の構成

WMD は、メモリ内のネットワークのほぼリアルタイムの表現 (モデル) を提供して、アプリケーションがそのモデルにアクセスできるようにします。SAGe から変更を取得します。

この手順では、エキスパートモードを使用して WMD を設定する方法について説明します。一方、WAE UI を使用して、WMD を構成することもできます。Cisco WAE UI から、[WMD 設定 (WMD Configuration)] をクリックし、以下の情報を使用して WMD を設定します。[保存 (Save)] をクリックして、設定を保存します。

始める前に

次の情報が手元にあるか、構成されている必要があります。

- 最終ネットワークモデル名
- 設計 RPC

-
- ステップ 1** エキスパートモードから、[/wae:wae/components/wmd:wmd]に移動し、[設定 (config)] をクリックします。
- ステップ 2** [network-name] ドロップダウンリストから、最終ネットワークモデルを選択します。
- ステップ 3** [enable] ドロップダウンリストから [true] を選択して WMD を有効化します。
- ステップ 4** [rpc-connection] をクリックして、設計 RPC 値を入力します。
- ステップ 5** [app-subscriber-connections] をクリックし、すべての自動化アプリケーション接続のホストとポートの情報をに入力します。
- ステップ 6** [dare] をクリックして、次の値を入力します。
- [dare-destination] : 最終ネットワークモデルを選択します。
 - [connection-attempts] : 接続が再確立されるまでの再接続の試行回数を入力します。
 - [connection-retry-delay] : 接続試行の間隔 (秒単位) を入力します。
-

例

WAE CLI (構成モード) の例 :

```
# wae components wmd config network-name <final_model_name> dare dare-destination  
<dare_model_name>
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。